

「福祉事業再開」で笑顔



久しぶりになかまと健康・予防体操。
「必要なことが普通にできる日常」を取り戻そうとがんばっています。支えている福祉事業関係のみなさんに感謝。

議長就任あいさつ・議会構成……………②

補正予算・報告事案等を審議……………③～⑤

村長に対する辞職勧告決議・コロナ対策特別委員会設置……………⑥

村政を問う……………⑦～⑮

わたしのひとこと(大日方 直樹さん・渡辺 洋子さん)……………⑯

議長挨拶

「将来も安心の暮らし」

北村 利幸



5月の臨時議会において議員皆様方の推挙により議長に就任いたしました。

身に余る光栄であり、重責を痛感しておりますが、元より浅学非才の身であり皆様のご指導をお願いいたします。

議会は、行政の事業をチエックし、公正・効率的に執行されるとともに住民の声が反映されるよう、村の将来を見据え、適度な距離を保ち、住民福祉の向上と当村の発展のために議論を深めてまいります。

今年の冬季シーズンは過去に例のない少雪となり、さらにコロナウイルス感染

症のまん延により、早期に営業自粛となってしまい、観光事業関係者をはじめ多くの村民の皆様の生活に多大な影響が及んでしまいました。議会といたしまして、現状を把握し今後の対応を進めてまいります。

現在、宮本に複合拠点施設の建設が始まりました。

来年三月末の完成予定で、安心居住住宅・デイサービスを併設しており、小谷村で安心して暮らすことができる施設として、大きな期待が寄せられております。

当村は、急激な人口の減少、少子高齢化、観光事業再構築など多くの課題があり、将来も小谷村で安心して暮らすことができよう、議論を深めてまいります。皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

のあいさつといたします。末尾となりましたが、「令和2年7月豪雨」により犠牲になられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますと共に、被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興と、皆様の日常が一日でも早く取り戻せますよう、心からお祈り申し上げます。



議会構成

議会運営委員会

(議会運営・諸規定等担当)

委員長 宮澤 正廣

副委員長 太田 武彦

委員 藤原 賢司

委員 吉澤 学

副委員長 北村 利幸

副委員長 猪股 充拓

委員 藤原 賢司

委員 吉岡 久人

委員 猪股 充拓

委員 曾根原 恵子

委員 横澤 かつ子

委員 吉澤 学

委員 深澤 英喜

委員 吉岡 久人

委員 深澤 英喜

委員 猪股 充拓

委員 北村 利幸

委員 北村 利幸

委員 猪股 充拓

委員 北村 利幸

委員 猪股 充拓

委員 藤原 賢司

委員 吉岡 久人

委員 猪股 充拓

委員 藤原 賢司

委員 吉岡 久人

委員 猪股 充拓

委員 藤原 賢司

委員 吉岡 久人

委員 猪股 充拓

委員 藤原 賢司

補正予算・報告事案等を審議

4月臨時会

件名	内容	審議結果
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第1号）	1,600万円追加 総額45億8,600万円 関係人口創出事業他	可決 (賛成多数)

5月臨時会

◇専決処分報告

件名	内容	審議結果
小谷村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	非常勤消防団員等に係る障害等の補償基礎額の改正	承認 (全員賛成)
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第2号）	3億1,900万円追加 総額49億500万円 特別定額給付金、新型コロナウイルス感染予防マスク・防護服、新型コロナウイルス感染症拡大防止協力企業事業負担金、県融資保証協会負担金他	承認 (全員賛成)

◇議案

件名	内容	審議結果
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第3号）	1,900万円追加 総額49億2,400万円 柵池自然園楠川トイレ建築工事中止に伴う損害賠償金他	可決 (全員賛成)
工事請負契約の締結について（小谷村営農等倉庫建築工事）	契約金額：7,535万円 契約相手方：株式会社鷺澤建設	可決 (全員賛成)
損害賠償の和解並びに額を定めることについて	賠償金額：1,944万円 柵池自然園楠川トイレ建築工事中止に伴う賠償金	可決 (全員賛成)
小谷村固定資産評価審査委員会委員の選任について	山田 健 氏（池原） 令和2年6月19日選任	同意
村道路線の認定について	雨中線2	可決 (全員賛成)

6月定例会

◇専決処分報告

件名	内容	審議結果
令和元年度小谷村一般会計補正予算（第13号）	16,200万円減額 総額 46億円500万円	承認 (全員賛成)
令和元年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第6号）	1,800万円減額 総額 3億5,400万円	承認 (全員賛成)
令和元年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第5号）	370万円減額 総額 9,810万円	承認 (全員賛成)
令和元年度小谷村簡易水道事業特別会計補正予算（第6号）	70万円追加 総額 1億170万円	承認 (全員賛成)
令和元年度小谷村農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号）	90万円減額 総額 8,050万円	承認 (全員賛成)

◇ 一般報告（報告のみ）

件名	内容
令和元年度小谷村一般会計繰越明許費繰越計算報告	道の駅改修工事、平倉・湯原トンネル補修工事 以下15事業 2億3,055万5,000円を次年度へ繰越
令和元年度小谷村一般会計事故繰越計算報告	拠点施設整備事業 6億2,825万円を次年度へ繰越
出資法人の経営状況報告 (株式会社 道の駅おたり)	総売上額2億7,003万5,000円（前年比93%） 新型コロナウイルスにより冬期売上前年度比3割減
出資法人の経営状況報告 (株式会社 おたり振興公社)	サンテインおたり売上合計 6,765万円（前年比92.9%） 雨飾荘 5,339万円（前年比103.1%） 柵池山荘 4,806万円（前年比94.5%） ビジターセンター（自然園） 3,360万円（前年比196.5%） キャンプ場 119万円（前年比17.9%）
令和元年度小谷村教育委員会事務事業の点検及び評価報告	公営おたり塾の運営、中学生海外交流（台湾）、稀少チョウの住民協働による保護活動、スポーツ振興 など

◇ 議案

件名	内容	審議結果
小谷村国民健康保険条例の一部を改正する条例について	傷病手当金の追加等	可決 (全員賛成)
小谷村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	新型コロナウイルス感染症に係る減免の特例条項追加等	可決 (全員賛成)
小谷村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について	傷病手当金支給に係る申請受付の追加	可決 (全員賛成)
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第4号）	2億8,300万円追加 総額 52億700万円	可決 (賛成多数)
令和2年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	620万円追加 総額 3億5,320万円	可決 (全員賛成)
令和2年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第1号）	50万円追加 総額 9,860万円	可決 (全員賛成)
売買契約の締結について（小型ポンプ積載車1台の購入）	売買契約額：858万円 契約相手方：有限会社 松本中信防災	可決 (全員賛成)
長野県町村公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の減少及び規約の変更について	東筑摩郡築北保健衛生施設組合の脱退	可決 (全員賛成)
小谷村特別職の職員で常勤のものとの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	村長・副村長の管理監督責任による、減給処分 (村長10分の1…3か月・副村長10分の1…2か月)	可決 (全員賛成)
工事請負契約の締結について（複合拠点施設建設工事）	契約金額：6億6,110万円 契約相手方：鷲澤・大糸特定建設工事共同企業体	可決 (全員賛成)

◇ 議員発議

件名	内容	審議結果
飼養衛生管理基準の改正案に関する意見書（案）について	大臣指定地域においても豚の放牧飼育が可能となるよう飼養衛生管理基準の改正を要望	可決 (全員賛成)

件名	内容	審議結果
村政に関する意見の決議について	固定資産税2分の1相当の補助金、県内からの観光客への宿泊補助券5,000円/人、新型コロナウイルス感染症特別支援対策室の設置等	可決 (全員賛成)
新型コロナウイルス感染症対策特別委員会の設置について	議会内に新型コロナウイルス感染症対策特別委員会の設置	可決 (全員賛成)
中村義明村長に対する辞職勧告決議案に関する決議(案)	議決事項を無視した(株)小谷アセット解散発言、議会未承認の公印使用による合意書締結、新聞報道された公職選挙法に関わる行動等	可決 (賛成多数)

請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
総務委員会	議会と住民との懇談会の実施に関する陳情書	代表者 相澤 元宏	採択 (全員賛成)
経済委員会	小谷村内スキー場の少雪対策工事等に対する助成を求める陳情書	柵池ゴンドラリフト株式会社 代表取締役 榎淵 忠一 株式会社白馬アルプスホテル 代表取締役 鷲澤 汪 奥白馬高原開発株式会社 代表取締役 花岡 一登 白馬観光開発株式会社 代表取締役 和田 寛 株式会社白馬館 代表取締役 松澤 貞一 柵池観光開発株式会社 代表取締役 栗田 優	採択 (全員賛成)
経済委員会	公共事業発注および建築関連助成金事業に関する陳情書	小谷村建築業者協会 協会長 小池 利治	採択 (全員賛成)

「検討する」の回答はどうなったか?

【質問に「検討する」とした回答は、1年間検討後に村長より再回答されます。】(抜粋)

〈質問(令和元年6月)〉

〈再回答〉

- 村補助金の公表…………… ◆ プライバシーもあり、団体等は同意の必要あり。可能なものは決算資料等で。
- 車両急発進防止装置の補助…………… ◆ 本年度より購入及び取付費を対象とし、経費の3分の2、上限3万円を施行。
- 給付型奨学金制度創設…………… ◆ 村奨学金償還免除制度(上限120万円)は県の制度より有利のためしない。
- 山村留学卒業生の村貢献大…………… ◆ 導入は過去の形態とは違う形式でと考え、庁内で意見交換を進めていく予定。
- 旧沓掛茶屋の再利用…………… ◆ 検討委員会で曳家・茅葺屋根の復元として、新たな観光拠点として整備。

中村村長に対して辞職勧告決議案を決議 賛成6名反対3名で可決！

中村義明村長に対する

辞職勧告決議（全文）

中村義明村長就任以来、

昨年6月の議決事項（地方自治法第96条）を無視した株式会社おたりアセットの解散発言、議会の承認を得ることなく公印を使用し合意書を締結し、株式会社おたりアセットの精算手続きを実行したことなどを始め、加えて3密を率先して避けるべき立場にある村長自身が元職員の見舞いに病院に行き、新聞に報じられた公職選挙法に関わる行動は、村長としての自覚の欠如の最たるものである。

さらには、新型コロナウイルス感染症に対しての予算対応を始め、本年度予算に公約に関わる具体的な予算付けが計上されていないことを受け、我々議会から本年3月16日と5月15日の

2回に渡り、中村義明村長に対して政治姿勢を正すよう求めてきた。

しかしながら、今まで同様今議会においてもその姿勢を全く改めようとせず、不誠実で、その場しのぎの答弁に終始し、反省の念を一向に示そうとしない中村義明村長の対応は、村民に大きな不信感を招き、行政の停滞がさらに進むことは必至であることから、このまま放置することは許されるものではない。

よって、本日ここに中村義明村長に対して辞職を勧告する。令和2年6月17日

提案者 宮澤正廣
賛成者 太田武彦

反対討論 1名（抜粋）

○議案をことごとく否決されているわけでもなく、住民福祉が滞っている状態で

もない。法的に処罰された訳でもなく、議員全員でしっかりと検証し議論しなければならぬ。（曾根原）

賛成討論 4名（抜粋）

○私たちには常に公職選挙法がついて回る。今回の限りなくグレーな行為は駄目だと思ふ。（吉澤）

○村長の独断でアセットの解散、清算手続きを行った。議会制、民主主義のルールにのっとっていたか。3密の自粛をお願いしてきた村長の行動が新聞報道されてしまった。公職選挙法に関わる内容になってしまったのは非常に残念。（藤原）

○あまりにも安易で軽率な行動があった。公職選挙違反と誤解される行動で、村民の皆さんを裏切る行動と言わざるを得ない。（猪股）

○職員の間である村長がマイナスの話題で新聞報道をされた。襟を正す意味を含めてこの意見に賛成の立場を表明する。（吉岡）

コロナ対策特別委員会を設置しました

今6月定例会で「新型コロナウイルス感染症対策特別委員会」の名称で設置することを決定しました。

コロナウイルスに対する賢明な対応が、地球規模で続けられています。小谷村でも村民の命とくらし、経営が深刻な事態となっています。「緊急性と同時に長丁場での対応」が必要で、議会の在り方、活動のあり方はこれまで以上に柔軟な対応が求められています。村民の皆さんと一緒に政策提言をして、行政の後押しをすることを目的とします。

検討事項

- 1、観光経済にかかわる事項
- 2、財政にかかわる事項
- 3、企画・危機管理にかかわる事項
- 4、教育にかかわる事項
- 5、医療福祉にかかわる事項
- 6、その他必要とする事項

第1回目の委員会では今後の活動の方向について、



毎年恒例の塩の道まつり
5月連休中に開催され多くの方が村を訪れる。今年は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となりました。

第2回目は住民懇談会について検討しました。
現状問題を出し合い、意見交換をする中で、さらに現場に向いての聞き取り調査・アンケート方式などを取り入れることで、しっかりと把握したいと思えます。
皆様のご意見等、お寄せください。
定数はオブザーバーとしての議長を除く9名。

- | | |
|-------|-------|
| 委員長 | 太田 武彦 |
| 副委員長 | 曾根原恵子 |
| 委員 | 深澤 英喜 |
| 吉岡 久人 | 吉澤 学 |
| 猪股 充拓 | 宮澤 正廣 |
| 藤原 賢司 | 横澤かつ子 |

村政を問う

令和2年6月定例議会一般質問

一般質問（6月10日）は、定例議会において質問通告書（締切6月2日）を提出し、1時間の制限で執行機関に疑問点や所信を問います。今定例会は時間短縮を申し合わせとして、議長を除く9名が登壇し、内7名が新型コロナウイルス感染症関係を質問し、傍聴者は9名でした。

障がい者福祉の充実について



横澤かつ子 議員

問

小谷村第5次総合計画が策定され、基本計画第4章に「健やかに生き生きと暮らせる村づくり」福祉事業の施策の項目がある。近年障がい者福祉ニーズが多様化している中で自己実現の支援と社会的障壁の除去が強く求められている。

答

白馬・小谷の有志で結成された、障がい者福祉推進支援団体から提出された「障がい者グループホーム設立」を村はどのように受け止めているか。

村長 大町市の事業者が白馬村を候補地として建設を検討。

問

小谷村としての支援は。

答

村長 村として、敷地造成部分の補助という点で協力できるものと考えている。

問

事業者の資金等については。

答

村長 白馬村と調整のうえで進めていて、必要な予算は時期を見て予算計上したいと考えている。

問

障がい者福祉においては、早期の的確な理解と指導及び支援が求められている。村の現状及び今後の見通しについて伺う。

答

村長 この4月に立ち上げた「子育て世代包括支援センター」において、妊娠期から子育て期の相談に応じる中での早期からの支援につなげている。

問

保育園年長児から中学生についてはどうか。

答

村長 保育園・小学校・中学校の担当者、村保健師、学校医、安曇養護学校の先生、大北圏域障がい者総合支援センター（スクラムネット）のスタッフを委嘱して、放課後デイサービスの支援につなげている。

問

障がいの有無にかかわらず、自分らしく生きていくためには、地域全体の理解や協力のもと必要な支援を受けることが必要不可欠と思われるが。

答

村長 子供や高齢者、すべての村民の皆様が地域の中で暮らし、生きがいのある社会を創り高めよう、地域共生

社会が必要とされている。

問

権利擁護や差別解消に向けた村の考え、取り組みについては。

答

村長 村では平等で住みよい村づくりのため、人権を含めた差別解消に向けての研修を行っているが、権利擁護や差別解消を進めるためには、さらなる意識の醸成に取り組みが必要がある。適時適切な広報などに努めていく。



社会福祉法人しあわせ「クロスロード白馬」農福連携で土倉そば組合のみなさんと石ひろい作業

関係人口創出事業について



深澤 英喜 議員

問 企業に対しての、「ふるさと応援寄付金」のばらまき、と感ずる。

答 村長 この事業については、観光人口を目指すだけではなく、小谷村の自然体験を通じ、子どもたちの思い出に小谷村を残すことで10年後、20年後のリピーターとなるお客様、さらには関係人口につながる人を育てる事業。つまり関係人口創出事業として実施するもの。

事業予算は、

- ①、報償費（宿泊補助券・パノラマウェイ補助・記念留印） 1,140,000円
- ②、消耗品費 30,000円

③、役務費（宿泊補助券決済手数料・出展費） 258,000円

④、委託料

14,657,000円

総額

16,085,000円

であり、財源にはふるさと応援寄付金からの繰入金金を充当している。

具体的な事業内容と委託料は、

①、公益財団法人OBJ（日本アウトワード・バウンド協会）の野外教育プログラム「キッズワイルドおたり」

4,100,000円

②、一般社団法人グリーンプロジェクトによる体験プログラム「サマーキャンプ」

3,047,000円

③、(株)ベネッセコーポレーションによる幼児・低学年体験プログラム「こども体験プログラム」

7,450,000円

の実施を計画している。

複合拠点施設について

問

村の負担が多くなるであろうと懸念と心配する施設だ。着工は待つべき。必要な部分で、再検討し、木造平家でスタートするぐらいの考え方で、現在の計画物件は白紙に戻すべき。

答

村長 まずは、建設計画のもとになったのが、平成28年から発足した「おたり54プロジェクト」で、この中で度重なる協議の結果、最初は、安心住居施設を検討した。ただし、食事面を考慮すること、また、食事とセットで公的支援機能を実施できること、さらに住民交流を行えることなど、様々な機能を合わせた「複合拠点施設」を建設することが決定された。運営にあたり村の負担が大きくなるという懸念については、この村を残そう、人口を維持しようというコ

ンセプトでスタートし協議してきたのが「54プロジェクト」。守るべき住民、困っている住民に対して、公的支援が必要なものは、村が負担していくことも必要である。

維持管理経費（光熱水費）については、他の公的施設と比較し、同等程度もしくはそれ以上（施設規模から考慮すると、年間500万円は超える）と予想される。

官民協働を踏まえ、村としては必要となる費用は負担することを念頭に運営内容を検討しているところだ。白紙・着工の延期は考えてはいない。

梅池自然園補川トイレについて

問

損失額は。

答

村長 工事中止に伴う建設会社への損害賠償金

19,440,000円

工事請負費の精算額

設計委託料 19,969,200円

3,780,000円

監理業務委託料

2,376,000円

合計支出

45,565,200円

当初計画	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
準備		■										
地業・基礎			■	■	■							
躯体				■	■	■	■					
屋根・外装							■	■	■			
内装									■	■	■	
電気・機械設備工事				■	■	■	■	■	■	■	■	
検査(県・村)												■

複合拠点施設建設工事スケジュール

コロナ対策

村民生活回復にむけて



曾根原恵子 議員

収束の先はよりよい村を

問 世帯や個人への支援策は。各種減免制度の村民周知を。

答 村長 国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療の減免規定をケーブルTVやホームページで周知に努める。

問 コロナ禍で福祉係りの役割が重要だ。組織体制の見直しを。「福祉」と「保健」業務を分け、職員負担軽減と行き届いた村民対応を。

答 村長 慎重に精査する。

問 教育の支援策は。年度途中でも就学援助が受けられるよう周知を。

答 教育長 申請は通年受け付け、手続きの方法など周知に努める。

問 「がったクラブ」の現場で抱えている問題を把握しているか。

答 教育長 現在指導員不足はなく、スタッフ間でシフトを組んで対応している。他の仕事と兼務しながらも安定した勤務となるよう指導員確保に努める。

問 「急な1日保育になり現場任せの開所には不安があった」「緊張感や重圧の中、子どもが発熱した場合の連絡体制が確立周知を。

知られてなく現場判断の責任が重かった」と聞く。生活基盤を支えている学童保育の存在は大きい。指導員の処遇改善が必要だが。

答 教育長 給与は時間給支払いでこの4月に単価の見直しをして改善した。

問 改善とは言えない金額だ。コロナ対策により午前中から開所する場合、人材確保には国の補助がある。申請したか。

答 教育課長 申請手続を行った。

問 第2波に備え、休校に困難を抱える子どもへの対応を。「家庭学習が進まず親のストレスがたまつた」との声がある。

答 教育長 健康と学習に関する指導を丁寧に、特にネット依存にならないよう力を入れる。保護者のアンケート調査を行い家庭学習については改めて指導していきたい。

問 専門高校生、大学生への支援は。

答 村長 村の支援として高校3年生までの給付を先行した。大学生・専門高校生は本人または保護者申請になるので期間は9月まで延長とする。

問 「学費の半額補助」との議論もある中、3万円補助でいいのか。

答 村長 村の支援策は家庭の負担軽減が目的。学費については国の支援策の議論もされているところで、慎重に判断すべき内容と考える。

問 事業者支援策は。5月に実施された観光対策補助金は、限られた時間で実現させ評価されている。今後の経済活動再開の支援策を。

答 村長 宿泊予約インターネットサイト掲載情報を更新。村内店舗使用の商品券を村

民に向けて発行する。

問 感染への備え、事業者向けガイドラインの作成は。

答 観光振興課長 「白馬バレー」で広域的なガイドラインを作成・配布する。

問 医療・福祉現場の体制強化と職員待遇改善を。

答 村長 現状は崩壊レベルにはないが今後の対応策を講じ、待遇、体制についての検討を進める。



「がったクラブ」で自主学習 “教室で友達といっしょに勉強したいな”

新型コロナウイルス感染症対応について



吉澤 学 議員

問 第1、第2と対策は打ったが、その後の対策について考えはあるか。

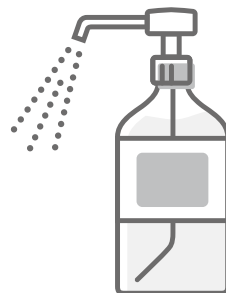
答 村長 令和2年4月から小谷村緊急観光対策補助金として2月及び3月分の売上に対して、2分の1を補助する事業を行った。140の事業者が申請し、総額24,783千円の補助を行ったところである。

また、小谷村緊急観光対策交付金として、小谷村観光連盟には令和元年度及び令和2年度分の会費相当額を補助し、観光協会等村内観光に係る団体については、観光に関する活動費に対する2分の1の補助

(3団体8,072千円)も行ったところである。

今後の対策として、六月補正予算に計上させていたのだが、村内店舗等経済対策支援金として、住民1人あたり1万円の金券を配布し、小谷村商工会と連携する中で、商工会に加盟する店舗等にて幅広く使用できるように現在調整をすすめている。

また、特別給付金として、村内宿泊事業者及び村内に



営業施設を有する宿泊事業者以外の法人・個人事業主を対象として、令和元年5月と6月の合計額の10%を給付する事業を計画しており、国・県の打ち出す施策に合わせて、独自の考え方ももって取り組む用意もある。確立してきたら提示し、専決処分あるいは臨時会における補正予算上程等の対応をと考えている。

なお、今後施行するこれらの対策については、引き続きスピード感を持ち、支援金・給付金がいち早く村民や事業者の皆様のお手元に届く様に工夫して進めていく。

感染症に対するホテル・旅館等事業者への対応策について

問 今後、大勢の人が来村すると思われるが、その対応等に考えはあるか。

答 村長 新型コロナウイルス感染症対策として小谷村が行ってきた支援事業等については、先ほどの質問のとおりである。

長野県が示した「社会経済活動の再開に向けた6月1日以降の対応」「宿泊施設用新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック」に基づいて、村と事業者が一体となって安全・安心を徹底していくことが重要であると考えている。

小谷村観光連盟においては、観光協会や索道事業者に対するイベント等支援事業を行っており、ゴンドラリフトに乗車するお客様を対象に約7千枚のマス

クを配布する柵池高原安心キャンペーンに支援しているところだ。また、希望する宿泊施設等に対して、非接触式検温計を準備することとしている。

HAKUBAVALLEY TOURISMにおいても、このエリア全体として、新型コロナウイルス感染症の対策ガイドラインについて検討し始めることとしている。



コロナウイルスの影響が大 観光産業対策を問う



藤原 賢司 議員

問 小谷らしい施設遺産を活用した観光振興

など住民と行政の協働により、アイデアを集め中長期的な計画を立てるべきと思うが村長の考えは。

答 村長 観光地域づく

り審議会からは、あと数回の審議会を経て答申を頂けると考えている。

審議会の答申を受けた後に、観光地域づくりについて新たな検討の場を設置する予定をしているので、その中で住民の皆さんを巻き込んだ様々なアイデアを集め、今後の指針にしたいと考えている。

問 小谷村での建設業の果たす役割は大きい。コロナウイルスによる予算縮小の懸念、雪不足による今後の除雪対策も含め、

建設業に対する将来を見据えた具体的な対策が必要だと思うが、村長の考えは。

答 村長 小谷村の現在の除雪委託料設定は

条件的には好条件だが、今後も小谷村に合った除雪体制を維持する施策を講じていきたいと考えている。

小谷村内では国県村の様々な公共事業が施工・計画されており、大規模な事業を含め、道路施設等の維持管理も従来の対症療法型から予防保全型への転換を図り、橋梁の寿命を延ばすことが求められており、この点からも今後、相当量の事業量になるものと考えている。

問 コロナウイルスにより一人親世帯、独居

老人世帯などの貧困率が上昇することが想定されるが、政府が打ち出している制度に対する積極的な活用を推進、手続き等に関わる支援のほか、小谷村独自の生活支援策を講じるべきと思うが、村長の考えは。

答 村長 基本的には、一人親世帯でコロナ

ウイルスの影響により収入が減った方や、臨時休校により子どもへの生活費がかかった方、独居老人等は年金支給以外に収入が見込めない状況を民生委員などを通じて把握し、支援策を検討したいと考えている。

問 国は子ども一人一台

のパソコン配備の補正予算を前倒しで盛り込んだが、このようなICT環境を整備する予算措置を活用して、オンライン授業が実施できる環境整備を整える必要性から、現状と今後の対応策は。

答 教育長 一方通行ではなく、ICTを活用した同時双方向型のオンライン指導が可能な環境整備の必要があると考えている。

小・中学校の全家庭を対象にアンケート調査をお願いし、現在集計分析中であり、本年度内の整備完了を目指して、今後進めたい。

問 避難所の3密を回避

するため、新しい生活様式に避難所の環境を改善するほか、分散避難などの体制を住民に周知する必要があると思うが考えは。

答 村長 コロナウイルスを恐れるあまり、

災害発生時に避難行動に移れず、生命に危険が生じる事は決して起こしてはならない。村民の皆様には「自らの命は自らが守る」という観点から、速やかに避難行動をとっていただけるよう、避難警報の速やかな発令とともに、分散避難における避難先の連絡方法等課題を早急に協議したうえで、

防災広報を、あらためて実施したい。

高齢者等の家庭用ごみ出し支援について

問 ゴミの分別方法や、

決まった収集日にゴミを収集場に捨てるという流れ、粗大ゴミの運搬が容易に出来ない人、曜日の感覚が乏しいため、ごみを出す日を忘れてしまう人など、高齢者にとって簡単な作業ではない。このような高齢者等のために、支援策が必要と思うが考えは。

答 村長 ゴミの分別

は、国民全体で取り組む内容であり理解をいただきたい。ゴミ袋の大きさは、大中小の3種類があるので、使い分けしてほしい。今日が何のゴミの日か分からなくなることでも理解できるので、例えば毎朝、今日は何のゴミか放送をすることで、村民へ周知することを今後の実践に向けた検討をしたいと思う。

山菜加工場古美里の現状は



宮澤 正廣 議員

問 山菜加工場と、古美里の施設の改修予定は。

答 村長 現在の山菜加工場の議論をしてきたが、具体的な方向性がでない。加工場を管理運営しているJAさんにおいてはヒット商品である「小谷漬」や「山うどのこの葉漬け」などは、今後も残したいとの考えがある。よって既存のスタイルを残しつつ改善していくか、または、新たな手法により加工施設構想を描いていくかで整備計画が異なる。本年3月末に、現状のまま食品衛生法などに適用した施設改修をした場合は、約1億6千万



施設の改修を望む工場

円と試算された。したがって経営方法を現在模索している。よって、現段階ではJAさんとしての意向を確認している。古美里については、古美里にJAさんの事務所が併設されていることから、JAさんの意向を確認の上で方向性を決めた。古美里の臭気対策については、利用者に聞きながら改善を検討してゆく。今後JAさんとの協議し詰めてゆきたい。まずはJAさんの考えを聞くことに比重をおきたいと思っている。

白馬高校の今の現状と今後の課題は

問 コロナ対策は。

答 村長 コロナ対策は、5月18日の週から再開し、6月1日より通常授業となり、白馬山麓事務組合が運営する学生寮の生徒は、高校とも相談の上で5月24日から入寮し、25日から登校また、東京都等からの学生は、5月31日から入寮となった。

問 小谷村の本年度負担総額は。

答 村長 小谷村が本年度負担する額は総額で3747万4千円、その他ハウスマスター等人件費、スキー部強化費、しろうま塾運営の補助金で、合計4433万5千円となる。

問 地元の学生が減ってきている要因は。

答 村長 国際観光学科が設置された28年度が12名、29年度が6名、30年度が2名、31年度が9名、本年度が4名。白馬高校では入学生に対してアンケートを取った。白馬高校以外に進学した人が、なぜ白馬高校を選ばなかったのかについて生徒からは、「固定的な人間関係でなく様々な人と知り合いになりたい」、「もう少し人数の大きな高校で切磋琢磨したい」、「部活動で他校を選んだ」、「将来の大学進学につながる学校を選んだ」、等の回答があった。

問 五年間の反省と今後の課題は。

答 村長 専門性を持った職員ばかりではないため、寮のスタッフや事務局職員の負担が大きくなっている点は反省すべきと考え。このことを含めて、寮の監理運営体制の改善に努める。



地域高校の将来は

答 村長 全国募集を始めてから順調に入学者を確保してきたが、本年度は昨年度を17名下回り入学者も減少している。いかに白馬高校の魅力を高め、地域や全国に発信し、学生を確保してゆく力が学校全体の課題である。

新型コロナウイルス対応は



吉岡 久人 議員

問 1 学童保育、2 小中学校、3 避難所、(1)

2 次避難所の区画面積と収容人員 (2) 感染症対応の収容人員 (3) 分散避難の計画と実現時期、4 共通事項、(1) 水道蛇口はレバー式に (2) 最新の体温計の導入を (3) 感染疑い向けの専用スペースやトイレの確保 (4) 観光向けのマスク、使い捨てビニール手袋の確保 (5) 期限付き備品の適正更新。

答 **教育長** (1 掲載省略)

配布。寄付の漢字練習カード(小学)。電話で生活・学習状況の把握と相談。家庭訪問。CATVで先生方のメッセージ・村教委作成の授業動画放映。県教委作成「一緒に学ぼう」家庭学習サポート動画配信。自主学習教材ソフト紹介。今後はICT環境整備に努める。前年度の繰越事業で校内LAN整備(6月入札、工期12月末)。一人一台の端末機器は当初4年間での計画を、国の補助を受け今年度中に整備。各家庭のICT環境調査実施中。一日の授業工夫は小学―木曜下校時間変更せず6時間授業を7時間に、中学―水曜5時間授業を6時間で。夏休みは当初29日間を7月29日～8月17日の20日間。これで中学は5日間、小学は4日間分の授業日確保。行事は小学―6月の音楽会を11月

の土曜参観日に。運動会・音楽会の練習を減らし授業時数確保。中学―例として一泊登山を日帰りにし、一日分の授業にあてる。その他行事も中止・縮小の見直しで4～5日分確保予定。年間授業は中学1080時間。学校基本法の国の基準(1015時間)を5月末時点で60時間以上の確保。

村長 3(1) 梅池社会体育館 面積1635㎡―収容人員750人、小学校907㎡―450人、開発総合センター(以下C) 1131㎡―600人、サンテイン2400㎡―800人、中通基幹C135㎡―70人、中土観光交流C608㎡―300人、道の駅450㎡―230人、大網公民館265㎡―130人、計3330人。指定緊急避難所は5施設合計で616㎡―294人。合計3624人。(2) 避難者世帯の間隔を2m程度とした場合は収容人員の50%程度の想定。

(3) 国助言で、宿泊団体等と連携した施設活用は白馬村と共同協議開始。なお、不足時は民間ホテル等を活用予定。分散避難は3密に有効だが課題も多い。災害の種類や規模により様々な避難体制をとる必要あり、限られた職員数では避難所の大幅増は不可。現時点では車中避難を主に考える。

4(1) 計画的に対応。(2) 20個購入中。(3) パーティション64部屋分購入中。簡易トイレ20個(テント10張)備蓄。(4) 手袋3500枚備蓄。観光連盟はゴンドラリフト乗客に約7千枚のマスクを配布と希望する宿泊施設等に非接触式検温計を準備する。(5) 期限付きの防護服は今回の購入で更新。薬は保健C、診療所とも随時更新。

提言 3(2)は長野市で実測し1/3の収容人員の結果とのこと。資料収集を。

行政運営 反省と抱負

答

村長 感想は「感謝」の一言。行政事務の

流れや国への要望活動、議会の開催等村政1年の流れを覚えてくれた職員に。反省すべきことが多いと感じ、特に就任後の6月定例会冒頭での観光再開事業の決断は以後心に刻んでい

断。今後の抱負は施策に対し、庁内でまとまりをもって進めることが大切。そのためにも「チーム小谷」の構築推進は、今後の村政運営に必要な私の指針だ。

副村長 着任時、特定問題対応に時間を割き、他の重点事業等の進捗や課題理解までに時間を要したことが大反省。今後の抱負は理事者と職員、職員(村民と接し、求められる村政を承知)同士が議論を交わす活発な役場に。その意見や提案を事業や取組に反映すること大切にしたい。

観光事業再開について



太田 武彦 議員

問

①どのような体制で観光客を迎えてほしいか、それに向かってどのように指導するか。②迎えてほしい体制づくりのため、村はどのような支援をするか。③指導・支援はどのような体制で行うか。④村はどんな誘客支援策を考えているか。すでに、答弁済の事項については割愛の上答弁願う。

答

村長 ①5月25日に全国で緊急事態宣言が解除され、長野県が発表した「社会経済活動の再開に向けた6月1日以降の対応」において、観光、宿泊事業を取り巻く状況は、旅行環境、受け入れ環境の変

化や慣行に対する消費者心理の変化等、大きく環境が変わって行くと考えている。村だけではなく事業者の皆様と一体となって、まずは安心・安全を発信して行くことが重要であると考える。

②観光連盟からの対応において、観光協会や索道事業者に対するイベント等支援事業を行っている。ゴンドラリフト乗車者への7千枚のマスク、また、希望する宿泊施設等に対し非接触式検温計を準備することとしている。アルコール消毒液などの必要な衛生資材も需要にこたえていける体制を準備している。また、今後多くのお客様から小谷村の観光を選択していただくためのキャンペーンなどの計画を精査中であり、予算措置が必要であることを想定し支援体制を構築している。③、④観光事業への誘客支

問

援策としては、県内外に向けたプロモーション等が考えられるが、新型コロナウイルス第二波、第三波も予測される中で、状況を見ながら慎重に実施してゆく予定である。

新型コロナ対策推進宣言の店を目指すとしての、ハードルの高さ、

コロナウイルス経済ダメージによる収入減少、学業、社業の遅れを取り戻すための休暇の減少、そして何よりも、自分、家族の健康、今まで築いたものがゼロになる、地域へのダメージ、発生してしまった責任等々で事業者が営業再開するのが怖いとの声を考えると、観光立村を掲げる小谷村の存亡の危機が迫っているのではないかと。そこで、実態調査体制、相談体制、支援体制、営業プラン提案体制、等を備えた対策室の設置を提案するがどうか。

答

村長 大事なことである。検討する。

問

新型コロナウイルスの影響による3か月近い家庭内教育を鑑み、①学習の遅れはないか。②どうやって遅れを取り戻すか。③自宅での学習成果の検証は。④学校、教育委員会、保護者の共通認識をどう築くか。

答

教育長 ①中学の対応策等中心に答える。4月・5月に学習する内容がそのまま残っているが、行事、休日等ではないに学習が進むわけでもないことから、学校では、そんなに大きな遅れとなっていないと認識している。②詰め込んだとしても理解不足、消化不良等を考え粛々と事業を進めている。一年間かけて徐々に遅れを取り戻すことができる見通しを

立てている。③自宅学習は個人差が大きいと学校でも認識している。今年度の検証結果は2期制として年間2回行う。④補習授業は行わない予定。なお、中3は、例年どおり希望者への補習授業を行う。公営小谷塾への参加も呼びかける。⑤行事、授業参観等の機会を活用し共通認識を計っていく。



梅池民宿街

今後の新型コロナウイルス感染症に 対する対応・緊急事態宣言 解除後の政策は



猪股 充拡 議員

る宿泊事業者以外の法人・個人事業主を対象としての、令和元年5月と6月の合計額の10%を給付する事業を計画している。

国や県の制度設計により、小谷村の実情に合わなく手が行き届かない部分がある場合には独自の施策は必要と考えている。

問 ②緊急事態宣言が解除され村内の主要観光施設も6月1日よりオープンしているが、宿泊事業者の現場としては簡単に受け入れができる状況にない。3密を避けソーシャルディスタンスを取り注意喚起の徹底や施設のレイアウト・感染予防対策等、最低限リスク回避出来る状況を整えなくては営業に踏み切れない。村として手助けできるか。

答 ③今回の自粛生活・3密回避の性格の中で改めて見直され注目されたのがリモートワーク等の働き方改革や農業の見直し・都市集中型の危険性だと

る。共通認識として浸透すれば受け入れ側の一助となると思う。また、ウイズコロナ・アフターコロナとして、営業形態も最大収容人数を減少させるなどの対策を取らざるを得ないことから、コスト高になることが想定される。住宅リフォーム事業補助金の営業施設版となる営業施設等持続化改修事業補助金を創設し事業費の1/3、上限100万円とし令和2・3年度限定の事業とし新たな営業方式に向けた改修等に利用してもらいたい。

答 村長 この地域におけるガイドラインについて、HAKUBAVALLEY TOURISMで検討をはじめることになっている。共通認識として浸透すれば受け入れ側の一助となると思う。また、ウイズコロナ・アフターコロナとして、営業形態も最大収容人数を減少させるなどの対策を取らざるを得ないことから、コスト高になることが想定される。住宅リフォーム事業補助金の営業施設版となる営業施設等持続化改修事業補助金を創設し事業費の1/3、上限100万円とし令和2・3年度限定の事業とし新たな営業方式に向けた改修等に利用してもらいたい。

問 ③今回の自粛生活・3密回避の性格の中で改めて見直され注目されたのがリモートワーク等の働き方改革や農業の見直し・都市集中型の危険性だと

答 村長 村では以前からワーキングスペース・シェアオフィスの検討がなされている。現在村ではケーブルテレビの運営方法の見直しと、インターネット環境の改善の双方を早急に実施するため、令和3年度からIRU（公設民営）化を進めている。併せて村内のICT化やインバウンドをはじめ国内旅行者にとつても高速で無料の公設WiFiは観光地の選定に有力なインフラと考えており令和3年度のIRU化に向けてのご理解とご協力を願う。小谷村の農業については過疎化高齢化・農地の保全・後継者問題などが大きな問題となっている。従来

からある直接支払い交付金に上乗せした補助により集落営農を活性化することも一つの考え方。また本年1月に立ち上がった農業法人については若者の就労支援等、村内の農業をきちんと産業として確立すべく村としても応援できることはすべきと考えている。

問 異常気象・少雪対策は 皆様と協議する中で年末以前には最低でも1スキー場1ゲレンデのコースを確保することを目標に各事業者においてゲレンデ整備の計画を進めている。排水対策や地表整備・降雪機の導入など事業者によって内容は違うが村として基幹産業の基盤整備として整備費用の一部補助を行い支援する所存だ。補助金については、事業費の1/2、上限500万円として設定している。

からある直接支払い交付金に上乗せした補助により集落営農を活性化することも一つの考え方。また本年1月に立ち上がった農業法人については若者の就労支援等、村内の農業をきちんと産業として確立すべく村としても応援できることはすべきと考えている。

問 ①現行のコロナ対策は国・県の施策にそ

ったものだけ。今後より小谷村に合った、小谷村の事業者に寄り添った方策は。特に個人事業者に合ったものは考えられないか。

答 村長 今後の対策として6月補正に計上している村内店舗等経済対策支援金として、住民1人あたり10,000円の金券を配布し、小谷村商工会と連携し加盟している店舗にて幅広く使用できるように現在調整をすすめている。また、特別給付金と、村民宿泊事業及び村内に営業施設を有す

わたしのひまわり

「生活」と「暮らし」

大日方直樹（特産推進室）

大綱出身の父は約50年間の人工透析治療の末、72年の生涯を終えました。人工透析治療は週3回、1回4～5時間身動きを取らずに、血液を入れ替える治療です。食事管理や水分制限、運動制限など、本人にとつて、苦勞も絶えませんが命に直結する大切な治療です。また、共に暮らす家族も送迎や体調不良時の対応、管理された食事の準備や、何度も繰り返しされる入院や手術へのサポートなど、家族ならではの苦勞もありました。

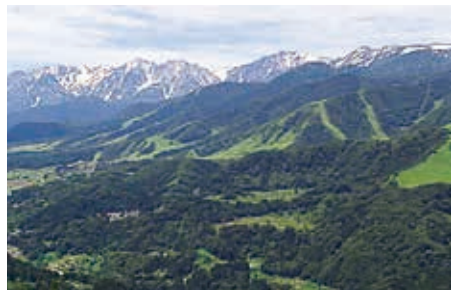
現在、医療が発展し、福祉の制度やサービスも充実していますが、多くの場合、「高齢者」「障害者」「障害児」など、困っていることを分野で判断し、当事者が制度を使うことを福祉として考えがちです。もちろん大切なことですが、抱える不安や困り事は必ずしも制度だけで解決できるとは限りません。ちよつとした声掛けや気配りをする。時にはそつとしておくことも必要です。一人一人が抱える不安や困り事はそれぞれです。当事者はもちろん、支える家族、友人、全ての人がそれぞれの暮らしがあることを見落とさず、困り事ばかりを見るのではなく、生きがいや楽しみをもつて、笑って過ごせる時間が大切だと感じます。

幸せに「暮らす」ことを意識しています。「生活」と「暮らし」の両方を大切にできない小谷村になって欲しいと思っています。

議員さんと遠足を

渡辺 洋子（里見）

新型コロナウイルスの影響がこの先どう続いていくのか心配です。そんな中、議会を傍聴して、行政がいろいろ対策を考えているのだとわかりました。何度か傍聴に行きましたが理解できないことが多いです。一般質問はケーブルテレビでみることができず。初日と最終日は「議案第〇号」という項目名が並んだ資料が配布されますが詳細がなく聞くだけではよくわかりません。数字を次々読み上げられることが多く聞き逃してしまっています。内容も多彩でややこしく、どこをどう見ればよいのかもわかりません。でも理解できないからと言



「眺望の里」から見た里見
アルプスにいだかれ、スキー場エリアが広がる

って諦めず「普段から行政や議会に関心を持つことが大事」と思っています。

私たち村民の多くは日々の生活にいつぱいで「議員にお任せ」となりがち。常に村の問題、将来を考え、広い視野で勉強なさっていることに感謝します。でも日常的なお付き合いをする方以外、議員は私には遠い存在です。もつと話や考えを聞きたい。「議員懇談会」が開かれると聞き期待しています。一回で終わることのないようお願いします。

「議員と一緒に遠足」のような企画があれば、参加したいです！

編集後記

私事ですが、4月2日に一週間後の母の一周忌を新型コロナウイルスの影響で3密を避けるため家族のみで実施と決断し、お寺・親戚に連絡しました。

翌日の議会全員協議会で、当村事業所の従業員（村外居住）が大北初の感染者との情報が流れ、驚かされました。その後、濃厚接触者の陰性が判明、一同安堵しました。その後、議会の重要性がますます増加したように思います。

今回、議会広報委員会が新メンバーとなり、村民により親しみのある「議会だより」となるよう努力する所存ですのでよろしくお願ひします。（吉岡久人 記）

委員長	吉岡 久人
副委員長	深澤 英喜
委員	猪股 充拡
〃	宮澤 正廣
〃	曾根原恵子